

タチウオ資源生態調査 (タチウオ漁場開発調査)

木村基文

1. 目的

タチウオの生物学的知見の収集を行う。

2. 調査方法

材料には、浦添・宜野湾漁協に水揚げされたタチウオを用い、併せてタチウオ漁場調査の漁獲物も利用した。

浦添・宜野湾漁協において月毎に100個体以上の体長測定(肛門全長)を行った。また、月毎に雌雄10個体前後の標本を購入した。標本の測定項目は、肛門前長・全長・体重・雌雄・生殖腺重量・胃内容物組成等であった。

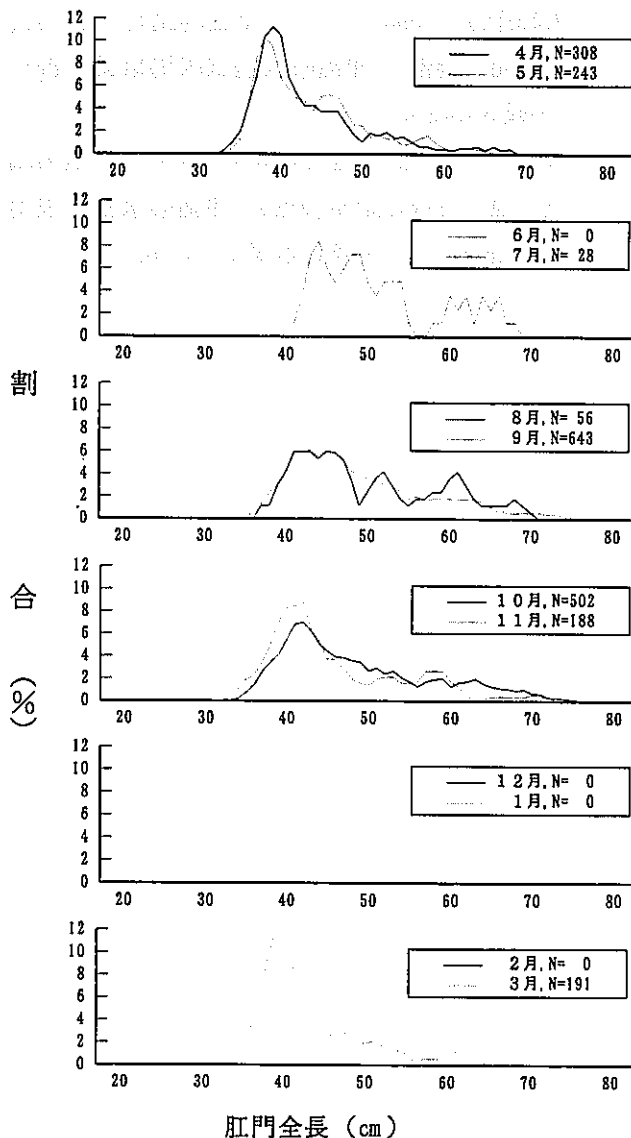


図1 タチウオの体長組成の月変化

3. 結果と考察

(1) 成長

浦添・宜野湾漁協において1995年4月～1996年3月の間に合計32日の市場調査を行い、タチウオ2,160個体の肛門前長を測定した。

4・5・10・11・3月の体長組成では肛門前長40cm前後にモードが見られるが、月毎の体長組成にモードの移動は見られない(図1)。

(2) 産卵生態

産卵生態を明らかにするために浦添・宜野湾漁協において1995年4月～1996年3月の間に購入した92個体、漁場分布調査の漁獲物37個体、マチ類漁獲調査の混獲物1個体の合計130個体の標本を利用した。標本の漁場は、購入魚が残波岬沖、漁獲物が残波岬沖～糸満沖・渡名喜島周辺、混獲物が伊江島周辺であった。

生殖腺重量指数(G.I.)の月変化より、雌雄とも5・11月前後に産卵すると思われるが、市場の水揚げ量等から産卵期の中心は11月前後と判断できる(図2)。

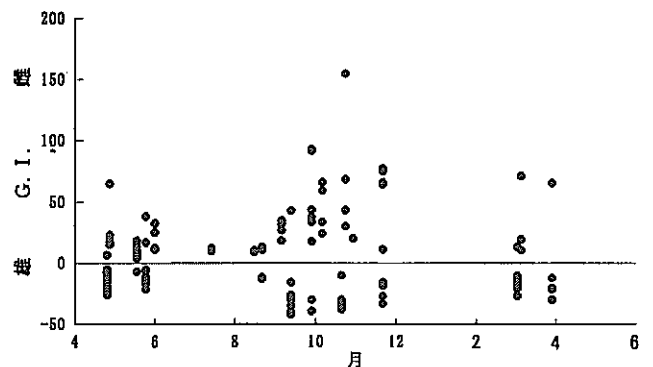


図2 タチウオの生殖腺重量指数の月変化
1995.4～1996.3

抱卵量は、産卵直前と思われる肛門前長675mmの雌で199,373粒であった。肛門前長50cm以上で産卵量は10～20万粒と推測される(図3)。

(3) 食性

胃内容物調査を行った130個体のうち85個体には

